6-01 快適な住環境と自然環境

視　点	●地球環境を守るために、自然にやさしい生活を送ること ●市民が、快適で安全な生活環境で暮らせるまちにすること ●安全で安定した水道水を供給し続けること ●持続可能な下水道事業を推進し続けること ●冬季の安全な道路環境確保のため、地域との協働による環境整備を進めること

6-01-01 生活環境

令和８年度の目指す姿

●「留萌市環境基本計画」の理念の浸透や地球温暖化対策に関する取り組みなど、市民や企業の環境問題や環境保全に対する意識が高まっています。
●適正なごみの分別など、市民のごみ減量化に対する意識が高まっています。
●ごみ収集支援により、家庭ごみ排出の負担軽減を図り、高齢者等が地域で安心して生活できる環境が維持されています。
●町内会や各種団体等による活動により、地域の環境美化が図られています。
●所有者等の適正な管理により、危険と判断される空き家が減少しています。
●「留萌市鳥獣被害防止計画」に基づく有害鳥獣の捕獲により、農業被害が減少しています。

前期５年間の検証

●クールチョイス（地球温暖化対策の一環として温室効果ガスの発生が少ない製品や行動を選択する運動）事業や各種啓発等により市民の環境に関する意識の向上は少しずつ図られていると捉えていますが、今後もより一層市民・企業・留萌市が一体となって取り組んでいくことが必要です。
●ごみの分別区分が多い中、市民の協力によりスムーズなごみ処理は行われ、また、町内清掃も定着しており、環境美化への意識が高まっています。
●令和２年度から、地域や関連事業者と連携し、高齢者等へのごみ収集支援を実施しています。
●空き家問題については、「留萌市空家等対策計画」を策定し、所有者等に対する啓発等を実施していますが、相続放棄等のケースも多く、中々減少にはつながっていない状況です。
●有害鳥獣駆除については、地元猟友会の協力のもと、「留萌市鳥獣被害防止計画」に規定している計画数どおりに捕獲を実施しています。

現状と課題

●クールチョイス（地球温暖化対策の一環として温室効果ガスの発生が少ない製品や行動を選択する運動）事業や各種啓発等により市民の環境に関する意識は少しずつ高まっていますが、環境問題はとても身近な問題であるということをより一層強く意識していくことが重要です。
●ごみの分別区分が多種にわたる中、市民の協力によりスムーズにごみが処理されている一方、不適切なごみの排出も発生していることから、継続して周知・啓発を実施していくことが必要です。
●高齢者等へのごみ収集支援時に、声掛け等による利用者の安否確認を行っています。
●空き家については、所有者の死亡、相続の放棄、企業の倒産などにより、中々減少していかないのが現状です。
●野良猫や市街地に出没する動物への無責任なエサやりの苦情が定期的に寄せられています。
●エゾシカの捕獲数が増加した場合の捕獲従事者の育成や確保について検討していくことが必要です。

後期５年間の方向性

●「留萌市環境基本計画」やクールチョイス（地球温暖化対策の一環として温室効果ガスの発生が少ない製品や行動を選択する運動）の推進により、市民の環境意識の向上に努めていきます。
●ごみの分別の必要性について継続的に周知し、ごみの減量、再利用、再資源化につなげていきます。
●高齢者等へのごみ収集支援により、地域や関連事業者と連携しながら、誰もが安心した生活を送ることができる環境の保全を図っていきます。
●町内会や各種団体等による地域の清掃活動をサポートし、市民の環境美化への意識を高めていきます。
●「留萌市空家等対策計画」に基づき、空き家の所有者等に対する啓発等を実施していきます。
●適正なペットの飼養について、飼い主のマナーの向上を図っていきます。
●地元猟友会との協力により、有害鳥獣の捕獲を進めていきます。

数　値　目　標

※現状：R2

指　標　項　目		現状	R4	R5	R6	R7	R8
市民一人が１日に出す家庭ごみ量	(g)	519.0	507.0	506.5	506.0	505.5	505.0
ごみのリサイクル率	(%)	58.1	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
狂犬病予防注射接種率	(%)	72.7	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
エゾシカ駆除頭数	(頭)	160	300	300	300	300	300

6-01-02　脱炭素社会の実現と省エネルギー・再生可能エネルギー

令和８年度の目指す姿

●将来の世代に配慮した環境に優しい生活の意識が高まっています。
●国が目指す「脱炭素社会の実現」に向けて、未来を見据え後世により良い環境を残すため、市民のライフスタイルや価値観の変化、再生可能エネルギーや新たなエネルギー環境、エネルギーの地産地消の仕組みづくりの研究などが進んでいます。

前期５年間の検証

●クールチョイス（地球温暖化対策の一環として温室効果ガスの発生が少ない製品や行動を選択する運動）宣言以降、毎年度各種事業を実施しており、地球温暖化対策に関する市民の理解は深まっていますが、今後は、ゼロカーボン（温室効果ガスの排出と吸収を相殺してゼロにすること）に向けたさらなる取り組みの推進が必要です。
●地域にある豊かな自然を活用した再生可能エネルギーの導入を進め、未利用バイオマスの資源化技術については、本格的な導入に至りませんでしたが、今後においてもエネルギーの地産地消の仕組みの構築が必要です。
●留萌市の令和２年の平均気温は8.7℃となっており、ここ50年で1.4℃上昇しこのまま地球温暖化が進むと自然環境や生態系が変わるなど、私たちの暮らしにも大きな影響を与えることになるため、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが急務となっています。

6-01 快適な住環境と自然環境

現　状　と　課　題

●地球温暖化対策については、一人ひとりが身近な問題と捉え、実践していく意識の向上を図ることが必要です。
●脱炭素型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換を推進するにあたり、二酸化炭素の排出削減と吸収の両面から取り組むため、地域にある豊かな自然を活用した再生可能エネルギーの導入を進めていますが、地域資源の再生可能エネルギーを活用した、エネルギーの地産地消の仕組みづくりが課題です。
●再生可能エネルギーは、安定した電源として活用するためには、導入コストの低減が大きな課題となっていますが、再生可能エネルギーの導入に向け、地域資源の賦存量を的確に把握し、地域特性に応じた適正な技術を選択することにより、地域の活性化につなげることが必要となっています。
●風況や海域の広さ、重要港湾を有する市であり、洋上風力発電におけるポテンシャルが高い地域であることから、地元漁業者との調整や共存を図りながら、洋上風力発電施設の誘致に向けた検討が必要です。

後期５年間の方向性

●地球温暖化に対する理解と二酸化炭素排出削減に向けた自発的な取り組みの拡大や定着を図っていきます。
●国が2050年までに目指す温室効果ガスの排出をゼロにする「脱炭素社会の実現」に向けて、未来を見据え後世により良い環境を残すため、再生可能エネルギーのほか、新たなエネルギー環境の研究などに取り組みます。
●再生可能エネルギーについては、資源の賦存量の把握と地域特性に応じた技術の研究を進め、導入の可能性を調査していきます。
●市民や事業者に対する再生可能エネルギーの普及啓発と導入に取り組みやすい環境づくりに努めていきます。
●二酸化炭素排出抑制に向けた公共交通機関の利用促進を図っていきます。
●留萌沿岸や沖合海域への洋上風力発電施設の誘致に向けて、企業等へのアプローチを進めます。

数　値　目　標

※現状：R2

指　標　項　目		現状	R4	R5	R6	R7	R8
再生可能エネルギーの導入量	(kwh)	5,801	現状以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
新たな再生可能エネルギー設備導入支援件数	(件)	0	現状以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上

6-01-03　上水道

令和８年度の目指す姿

●安全で安定した水道水の供給を維持しています。
●水道施設の耐震化が進んでいます。

前期５年間の検証

●経営面について、経営戦略に基づき収支均衡を保つため、令和４年度の料金改定の実施が決まったところですが、今後においても経営戦略を改定し、長期的に安定した安全な水道水の供給を維持することが重要です。

現状と課題

●施設の老朽化、人口減少による収益の減少が進んでいる中、安定した水道水の供給を維持するためには、精度の高い長期的な経営計画が重要であることから、見直しを実施しながら必要に応じて平成 30 年度に策定した経営戦略の改定を行います。
●技術系職員の確保及び技術の継承が課題となっているほか、水道施設の管理、更新について民間委託等の検討を進めていくことが重要です。

後期５年間の方向性

●経営戦略を改定し、それに基づき健全経営を維持していきます。
●老朽化した水道施設の改築・更新を計画的に進めていきます。

数値目標

※現状：R2

指標項目		現状	R4	R5	R6	R7	R8
取水・導水施設の耐震化率	(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

6-01-04 下水道・浄化槽・し尿処理

令和８年度の目指す姿

●下水道認可区域外における合併浄化槽の普及により、河川等公共用水域の水質保全が図られています。
●受益者負担の原則に基づく適正なし尿処理手数料収入により、市内事業者による収集運搬と施設の維持管理が行われています。
●安定的なし尿収集が実施されています。
●法適用後も健全経営を維持しています。
●人口密集地の管網整備が完了しています。
●浄化センターの設備更新が進んでいます。

前期５年間の検証

●下水道認可区域の拡大により、同区域外における合併浄化槽の新設数が減少傾向にありますが、河川等公共用水域の水質保全のため、引き続き費用助成等を実施していくことが必要です。
●概ね計画通り未普及地区の管網整備事業が進んでおり、令和２年度からは管網整備地区が供用開始となるため、下水道事業の各制度の周知等が重要です。
●経営面については、資金不足は解消しましたが、令和６年度の法適化事業を目指し準備を進めています。

現　状　と　課　題

●下水道認可区域が拡大したことにより、区域外での合併浄化槽の設置数は減少しています。
●人口の減少や水洗化によりし尿の収集量は年々減少していますが、持続的な収集体制を確保していく必要があります。
●管網整備は概ね計画通り進んでいることから、新たに下水道供用開始区域となった市民を対象として普及促進に努めます。
●浄化センター内の各種設備が更新時期を迎えてきているため、計画的に更新を進める必要があります。

後期５年間の方向性

●河川等の公共用水域の水質環境を保全するため、引き続き下水道認可区域外における合併浄化槽の設置を推進していきます。
●適正かつ安定的なし尿収集を実施していきます。
●認可区域拡大による管網整備は概ね完了する予定です。
●ストックマネジメント計画を基に浄化センターの更新を進めていきます。
●現在法適用化（財務適用）を進めており、令和５年度末に移行完了する予定です。

数　値　目　標

※現状：R2

指　標　項　目		現状	R4	R5	R6	R7	R8
下水道普及率	(%)	85.3	89.0	90.0	90.0	90.0	90.0
下水道水洗化率	(%)	89.0	89.4	89.6	89.8	90.0	90.0
下水道認可区域外の合併浄化槽新設数	(基)	0	2	2	2	2	2
し尿収集量	(kℓ)	2,479	2,284	2,215	2,148	2,083	2,020

6-01-05　火葬場・墓地

令和８年度の目指す姿

●終焉の儀式の場にふさわしい環境を維持しています。
●新規墓地希望者に対して、区画の広さなどニーズに合った貸し付けが行われています。

前期５年間の検証

●高齢化等の理由より墓地の管理が難しく、墓じまいによる区画の返還が増加しており、今後もこの状況が続いていくものと思われることから、新規に貸付する区画は一定の地区のみにするなど、景観等を考慮した対応が必要です。

現　状　と　課　題

●留萌南部衛生組合が管理・運営している火葬場については、平成 16 年度に供用を開始していることから、施設の維持管理が重要となっています。
●新規使用を希望するすべての方に貸し付けを実施しているほか、少子高齢化や核家族化により、お墓を継承することが困難な方のために合同墓を設置し、平成 31 年４月から供用しています。
●高齢化等の理由により墓地の管理が難しく、墓じまいによる区画の返還が年々増加しています。

後期５年間の方向性

●返還区画の適正な管理や新規の使用については区画を集約するなど、景観等を考慮した管理を実施していきます。

数　値　目　標

※現状：R2

指　標　項　目		現状	R4	R5	R6	R7	R8
市営墓地希望者の充足率	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6-01-06 除　雪

令和８年度の目指す姿

●市民との協働による効率的な除排雪により、冬の安全な道路環境が整備されています。

前期５年間の検証

●除雪機械については、助成事業などを活用し計画的に更新しており、現行の除雪体制が維持されているほか、市民との協働による効率的な除排雪については、地域・町内会と協議の場を設け、コミュニティ除雪のＰＲや効果的な除排雪作業を行うための取り組みについて、着実に進んでいます。

現　状　と　課　題

●道路への雪出しは、依然として後が絶たない状況であり、道路除雪の障害の原因となることから、引き続き啓発活動に取り組む必要があります。

後期５年間の方向性

●冬季道路環境の安全・安心の確保のため、町内会との協議の場を設け、雪堆積場の確保、コミュニティ除雪のＰＲを行っていきます。

数　値　目　標

※現状：R2

指　標　項　目		現状	R4	R5	R6	R7	R8
年間排雪量	(万㎥)	47	40	40	40	40	40
除雪に関する苦情件数(問合せ除く)	(件)	320	466	466	466	466	466

6-01-07 新たな公共施設整備の検討や集約化

令和８年度の目指す姿

●コンパクトなまちづくりと賑わいの再生を目指し、社会教育機能も兼ね備えた「新たな公共施設」の立地や利便性の高い都市機能の集積、公共交通環境や交通結節機能等の構築に向けて、官民連携により具体的な整備検討が進んでいます。

前期５年間の検証

●社会教育施設等の老朽化に伴い、駅前周辺地区での立地も視野に、道の駅るもい周辺地区とも一体となった賑わいや交流の拠点として、必要な機能や役割、行政機能の集約化のほか、民間誘導の可能性などについて検討を進めていくことが必要です。

現状と課題

●市民の憩いと交流や活力を生む重要な拠点施設である社会教育施設（文化センター、中央公民館、スポーツセンター等）の老朽化が進んでいます。

●船場公園を含めたＪＲ留萌駅周辺地区は、中心市街地や重要港湾留萌港に隣接しており、「留萌市都市計画マスタープラン」においても、要となる「賑わい復活ゾーン」として、ふれあい交流地区や広域交流拠点に位置付けられています。

●ＪＲ留萌駅に隣接する船場公園は、平成 31 年１月に地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「重点道の駅」として選定され、また、高規格幹線道路深川・留萌自動車道の全線開通により、道路アクセス環境の向上と地域へのゲートウェイ（玄関口）機能として、令和２年７月に道の駅るもいを開業し、新たな交流拠点として人の流れに期待が高まっていますが、ＪＲ留萌本線については 維持困難線区として廃線の方向性が示されており、将来に向けて廃線後の鉄道跡地の有効な活用方策や駅周辺地区の賑わい再生、公共交通の結節機能など駅周辺地区への機能集約とまちづくりについての検討が必要となっています。

後期５年間の方向性

●ＪＲ留萌駅周辺地区の環境・立地を生かしながら、コンパクトなまちづくりと賑わいの再生を目指し、社会教育機能も兼ね備えた「新たな公共施設」の立地誘導を図り、利便性の高い都市機能の集積、快適な移動（公共交通）環境や交通結節機能等の構築に向けて、官民連携により具体的な検討を進めていきます。

数値目標

指標項目	現状	R4	R5	R6	R7	R8
なし						